

後援会通信「グロース」秋号

GROWTH

2006
October
vol.9

—大学と家庭をむすぶ— Linking the University with Families

▶GROWTH(グロース)の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」(マタイによる福音書13章32節)、また、「わたしは種え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリントの信徒への手紙—3章6節)と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を十分に修め、神と人に祝されつつ大きく成長するようという期待が本誌に込められています。

微風に揺れる木々の葉も徐々に色づき始め、秋の深まりを感じさせる時節となりました。このたび、後援会通信「GROWTH(グロース)」の秋号が完成いたしました。東北学院大学後援会の会員の皆さまにお届けできますことを感謝しております。5月の後援会総会、7月から9月の地区後援会も無事に終え、学生が円滑に勉学や課外活動に励むための支援も滞りなく進んでおります。今後も大学と家庭の架け橋となるような誌面となることを願っております。

CONTENTS

後援会会長挨拶	1
学長挨拶	2
平成18年度後援会総会報告	3
平成17年度後援会収支決算書	4
平成18年度後援会収支予算書	5
平成18年度後援会事業報告・予定	6
後援会会員からのご意見	7
キャンパス・ニュース	8
教育と研究の世界	9.10
同窓生を訪ねて	11
学務部より	12
学生部より	13
就職部より	14



後援会会長 挨拶

丸 森 伸 吾

■株式会社七十七銀行代表取締役頭取、社団法人全国地方銀行協会副会長などを歴任。
現在、株式会社七十七銀行代表取締役会長、仙台商工会議所会頭、日本商工会議所副会頭、東北経済連合会副会長などを務める。

街路樹の葉も色づき、いよいよ秋本番を迎えました。在学生のご父母の皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より、後援会の活動に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

去る5月20日(土)に開催されました後援会総会におきまして、後援会会長に選任賜りました丸森伸吾でございます。微力ではございますが、後援会会長として、在学生のご家族と大学の連携を密にし、大学の充実と発展に貢献したいと念じておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、今年も東北学院大学後援会総会と地区後援会を開催し、多くのご父母の皆様にご出席いただきました。

後援会総会は、泉キャンパスを会場とし、約1,300名のご父母が集い、賑やかに開催されました。「平成17年度庶務報告」「平成17年度収支決算報告」「平成18年度事業計画(案)」「平成18年度収支予算(案)」「東北学院大学後援会会長の選任について」などをご審議いただき、お蔭様を持ちまして原案どおり承認されました。また、同時に開催されました大学開放プログラムにも多数のご参加をいただきました。特に、「学生の就職を考えるセミナー」や「パイプオルガンコンサート」は、会場が一杯になり、ご父母の関心の高さに驚かされました。「学科・専攻別懇談会」と「個別相談コーナー」では、大学開放プログラムの終了時間ぎりぎり

まで熱心に参加されており、“大学と家庭をむすぶ”役割を垣間見ることができました。

地区後援会は、去る7月15日(土)から9月2日(土)の主に週末を中心に、北は北海道札幌市から、南は東京都までの全29地区で開催し、総勢1,300名余りのご父母の皆様にご出席いただきました。総会と同様に開催した「本学教員による公開講座」では、身近なテーマでお話をさせていただき、大変ご好評をいただきました。また、全体会終了後の個別面談では、ご子女の就職問題や修学状況について、大学から派遣された教職員と直接ご相談いただきました。親元を離れて学生生活を送るご子女には何かとご心配でしょうが、地区後援会に出席されたご父母の皆様方の悩みや不安の解消に少しはお役に立てたのではないかと思います。

ご承知のとおり、東北学院大学後援会は、在学生のご父母の皆様を会員として、ご子女の円滑な学生生活と大学の充実・発展に寄与するため昭和24(1949)年に設立されました。設立されてから前半世紀以上が過ぎますが、これからも“大学と家庭をむすぶ”をモットーに、各種事業を展開してまいります。是非、会員の皆様方には、今後とも後援会活動に積極的にご参加いただき、さらなるご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

後援会役員・顧問・参与・事務局員 名簿

平成18年6月1日現在

会 長	丸 森 伸 吾	(仙 台 市)
副 会 長	江 馬 成 夫	〃
〃	三 島 卓 郎	〃
庶務担当理事	後 藤 久 幸	〃
会計担当理事	高 橋 祥 允	〃
理 事	浅 野 ひとみ	〃

理 事	伊 東 知 男	(仙 台 市)
〃	寒 河 江 満 子	〃
〃	佐 久 間 敬 子	〃
〃	佐 藤 章 治	〃
〃	村 山 令 記	〃
〃	渡 辺 静 吉	〃
〃	門 脇 利 勝	(石 巻 市)
〃	桂 久	(札 幌 市)
〃	成 田 智 典	(青 森 市)
〃	松 本 宏	(八 戸 市)

理 事	小 野 寺 久 美 子	(秋 田 市)
〃	深 澤 禎 彦	(横 手 市)
〃	工 藤 敏 納	(盛 岡 市)
〃	大 友 敏 男	(宮 古 市)
〃	及 川 和 夫	(北 上 市)
〃	浦 島 康 弘	(大 船 渡 市)
〃	金 子 泰 雄	(山 形 市)
〃	鈴 木 信 一	(酒 田 市)
〃	佐 々 木 信 之	(福 島 市)
〃	國 分 容 子	(福 島 市)



学長 挨拶

星 宮 望

東北学院中学・高等学校卒業。東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程修了。工学博士。北海道大学教授、東北大学教授、東北大学副総長などを歴任し、平成16年3月東北大学を定年退官。同年4月より東北学院大学長に就任。東北大学名誉教授。専門は電子工学。

この後援会は、在学生諸君の日々の学習や生活環境の向上などに寄与するべく、昭和24年から活動されていると伺っております。ご父母の皆様方には、これまでに多くの課外活動グループにおける諸活動にご支援いただくなど、正課の授業には組み込まれない、多面的な人材育成プログラムにも大きくご貢献いただいております。心から感謝申し上げます。

ところで、在学中に身につけた知識や考え方を抛り所に、多くの卒業生が多方面で活躍しておりますが、先輩方に続くべく、学生諸君にお伝えしたいことの一つに「失敗を生かす」ということがあります。これは東京大学名誉教授の畑村洋太郎先生が提唱している「失敗学」という概念で、失敗は隠さずに「直視」することによって克服できることを説いておられます。先生はその著書の中で、20世紀末頃に頻発した事故を分析し、責任追及をするのではなく、同じ失敗を繰り返ささないための考察をし、公表しておられます。それらは多くの示唆に富んでおりますが、とりわけ「失敗は許される失敗と、許されない失敗がある。前者は、個人や組織が成長していく間に通らなければならない失敗であり、後者は一つの失敗がおこったときにそれを隠し、知識をゆがめ、次に伝えないために不必要に繰り返される失敗である」という言葉が印象的です。また、「ほとんどの失敗は情報の途絶である」、「失敗がおこるごとに、よく『全く予期せぬことだった』という説明や弁明

がされますが、その多くが、実は、「ほぼ必然的に失敗にいたっており、失敗は予測できる」とさえいえる」などと指摘しておられます。そして、失敗を防ぐための具体的な方策の基本として『『臭いものにふた』をやめよう』、『『他山の石』を生かそう』『愚直な努力を続けよう』、『部分最適が全体最悪をもたらすことがあることを知って、時には成熟技術を封印する勇気も必要』などと述べられています。

一般に、若いときに新しいことに挑戦して失敗することは許され、そしてそれを反省材料にして向上することができると思います。しかし、それに気が付かないで、年長になってから起こす失敗には大きな代償がつくこととなります。私たちも、個人としてだけでなく、グループあるいは組織としても、同じ失敗を繰り返さないよう、畑村先生の分析・提案を参考に努力したいものです。

本学では、キリスト教の教えを基本として、人間としての心の抛り所を学んでおります。後援会の会員諸氏におかれましては、これらのことをご理解のうえ、今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

理事	只野裕一 (相馬市)	参 与	遠藤健一	参 与	高橋彌穂	事務局員	吉田知致
〃	福井文夫 (新潟市)	〃	遠藤和朗	〃	佐藤司	〃	佐藤光男
監事	天江皓一 (仙台市)	〃	斎藤誠	〃	秋葉龍一	〃	荒井元
〃	小濱良雅 (仙台市)	〃	遠藤銀三	〃	高相木義光	〃	桔野正
〃	白木進	〃	佐々木俊朗	〃	高相木孝郎	〃	斎藤英夫
顧問	赤澤昭三	〃	高橋征士	事務局長	鈴木嘉男	〃	斎藤野正
〃	倉松功	〃	佐々木哲夫	事務局員	高橋嘉健	〃	草野
〃	星宮望	〃	井上義比古	〃	菅野健淳	〃	
参 与	関谷登	〃	飛田善雄	〃	斎藤上捷	〃	
〃	大塚浩司	〃	原田善教	〃	井上捷二	〃	

次第

日時:平成18年5月20日(土)10時40分

場所:東北学院大学泉キャンパス礼拝堂

司会:後援会事務局長 鈴木 孝郎

1.開会宣言

2.聖書朗読並びに祈祷 宗教部長 佐々木哲夫

3.挨拶 会長 村松 巖
学長 星宮 望

4.議事

(1)平成17年度後援会庶務報告について
庶務担当理事 後藤 久幸

(2)平成17年度後援会収支決算報告について
会計担当理事 高橋 祥允

(3)会計監査報告について
監事 天江 皓一

(4)東北学院大学後援会規約の改正について
事務局長 鈴木 孝郎

(5)平成18年度後援会事業計画(案)について
庶務担当理事 後藤 久幸

(6)平成18年度後援会収支予算(案)について
会計担当理事 高橋 祥允

(7)東北学院大学後援会会長の選任について
庶務担当理事 後藤 久幸

(8)その他

5.後援会役員紹介

6.閉会宣言

◇学務部・学生部・就職部からの説明

(1)学務部より 教務課長補佐 芳賀 三雄

(2)学生部より 学生課長 荒 孝夫

(3)就職部より 就職課長 桔梗 元子

新緑まぶしい泉キャンパスに、約1,300名のご父母をお迎えし、平成18年度の後援会総会並びに大学開放プログラムを開催いたしました。総会で審議されました内容は次のとおりです。

(1)平成17年度後援会庶務報告について

後藤久幸庶務担当理事より、役員人事、平成17年度役員会、平成17年度後援会総会及び大学開放プログラム、平成17年度地区後援会実施状況について報告があり、原案通り承認された。

(2)平成17年度後援会収支決算報告について(本誌4ページ参照)
高橋祥允会計担当理事より報告があり、原案通り承認された。

(3)会計監査報告について(本誌4ページ参照)
天江皓一監事より帳簿等が正確に整備されていることについて報告された。

(4)東北学院大学後援会規約の改正について
鈴木孝郎事務局長より東北学院大学後援会規約改正について説明があり、原案通り承認された。

(5)平成18年度後援会事業計画(案)について
後藤久幸庶務担当理事より、平成18年度後援会総会、平成18年度地区後援会について説明があり、原案通り承認された。

(6)平成18年度後援会収支予算(案)について(本誌5ページ参照)
高橋祥允会計担当理事より説明があり、原案通り承認された。

(7)東北学院大学後援会会長の選任について
後藤久幸庶務担当理事より、東北学院大学後援会会長の推挙について経過説明があり、(役員会より推薦された丸森仲吾氏が)原案通り(満場一致で)選任された。



総会の様子


 平成17年度 東北学院大学後援会収支決算書

収入の部

平成18年3月31日(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	予算との差異	備 考
前年度繰越金	27,071,453	27,071,453	0	
後援会費	197,628,000	198,056,000	428,000	12,383名 (12,354名)
大 学 院	3,904,000	3,832,000	△ 72,000	240名 (244名)
文 学 部	40,304,000	40,208,000	△ 96,000	2,513名 (2,519名)
経 済 学 部	74,752,000	75,040,000	288,000	4,690名 (4,672名)
法 学 部	25,920,000	26,056,000	136,000	1,629名 (1,620名)
工 学 部	31,968,000	32,280,000	312,000	2,018名 (1,998名)
教 養 学 部	20,720,000	20,560,000	△ 160,000	1,285名 (1,295名)
経 済 学 部 二 部	60,000	80,000	20,000	8名 (6名) @ 10,000
雑 収 入	8,000	8,193	193	預金利息
合 計	224,707,453	225,135,646	428,193	

(△印は収入減)

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	予算との差異	備 考
体 育 文 化 費	113,452,000	103,059,076	△ 10,392,924	各部活動・大会参加費・合宿費等補助
学生会関係補助	11,000,000	8,460,982	△ 2,539,018	
体育会関係補助	53,600,000	51,316,460	△ 2,283,540	
文化会関係補助	6,500,000	6,958,568	458,568	
夜間活動団体関係補助	5,200,000	4,206,043	△ 993,957	
工学部学生会補助	5,000,000	3,804,516	△ 1,195,484	
学生活動指導費	1,350,000	1,165,000	△ 185,000	
大会・合宿等付添補助	15,500,000	13,959,410	△ 1,540,590	
特別強化補助費	10,000,000	8,100,000	△ 1,900,000	体育選手・文化活動特別強化補助費
雑 費	5,302,000	5,088,097	△ 213,903	懸賞論文・課外活動功労者表彰 他
保 健 衛 生 助 成 費	1,000,000	1,000,000	0	保険室備付器具薬品代
奨 学 金 助 成 費	18,000,000	18,000,000	0	奨学会奨学金等
緊急貸与奨学金助成費	2,500,000	0	△ 2,500,000	家計急変による貸与奨学金
就 職 活 動 助 成 費	7,200,000	7,198,834	△ 1,166	就職活動費・合同企業セミナー開催費 等
大学院学生活動助成費	3,904,000	3,832,000	△ 72,000	
時 報 助 成 費	7,000,000	7,000,000	0	時報印刷費・郵便料 他
総 会 費	28,000,000	27,990,158	△ 9,842	総会費・地区後援会費 等
雑 費	4,500,000	4,472,659	△ 27,341	事務局費・システム変更料 他
課外活動移動用車両助成費	10,300,000	10,154,650	△ 145,350	課外活動用マイクロバス購入費
予 備 費	28,851,453	0	△ 28,851,453	
次年度繰越金	0	42,428,269	42,428,269	
合 計	224,707,453	225,135,646	428,193	

(△印は支出減)

監査報告書

平成18年4月14日、本学土樋キャンパス会議室において、平成17年度東北学院大学後援会会計収支決算書並びに諸帳簿・証憑書類等の監査をいたしましたところ、すべて正確に整備されておりますことをご報告いたします。

平成18年4月14日

東北学院大学後援会 監 事 天江 皓一 印
 監 事 小濱 良雅 印
 監 事 白木 進 印

平成18年度 東北学院大学後援収支予算書

収入の部

(単位:円)

科 目	前年度決算額	本年度予算額	前年度決算との差異	備 考
前年度繰越金	27,071,453	42,428,269	15,356,816	
後援会費	198,056,000	198,202,000	146,000	12,388名
大学院	3,832,000	4,368,000	536,000	273名 (法務研究科を含む)
文学部	40,208,000	37,456,000	△ 2,752,000	2,341名
経済学部	75,040,000	73,552,000	△ 1,488,000	4,597名
法学部	26,056,000	25,904,000	△ 152,000	1,619名
工学部	32,280,000	32,384,000	104,000	2,024名
教養学部	20,560,000	24,528,000	3,968,000	1,533名
経済学部二部	80,000	10,000	△ 70,000	1名 @ 10,000
雑収入	8,193	8,000	△ 193	預金利息
合 計	225,135,646	240,638,269	15,502,623	

(△印は収入減)

支出の部

科 目	前年度決算額	本年度予算額	前年度決算との差異	備 考
体育文化費	103,059,076	120,550,000	17,490,924	各部活動・大会参加費・合宿費等補助
学生会関係補助	8,460,982	10,000,000	1,539,018	
体育会関係補助	51,316,460	53,600,000	2,283,540	
文化会関係補助	6,958,568	7,500,000	541,432	
夜間活動団体関係補助	4,206,043	5,700,000	1,493,957	
工学部学生会補助	3,804,516	5,000,000	1,195,484	
学生活動指導費	1,165,000	1,350,000	185,000	
大会・合宿等付添補助	13,959,410	15,500,000	1,540,590	
特別強化補助費	8,100,000	15,900,000	7,800,000	体育選手・文化活動特別強化補助費
雑 費	5,088,097	6,000,000	911,903	懸賞論文・課外活動功労者表彰 他
保健衛生助成費	1,000,000	1,000,000	0	保健室備付器具薬品代
奨学金助成費	18,000,000	18,000,000	0	奨学会奨学金等
緊急貸与奨学金助成費	0	2,500,000	2,500,000	家計急変による貸与奨学金
就職活動助成費	7,198,834	8,600,000	1,401,166	就職活動費・合同企業セミナー開催費 等
大学院学生活動助成費	3,832,000	4,368,000	536,000	
時報助成費	7,000,000	7,000,000	0	時報印刷費・郵便料 他
総 会 費	27,990,158	28,000,000	9,842	総会費・地区後援会費 等
雑 費	4,472,659	3,000,000	△ 1,472,659	事務局費 他
課外活動移動用車両助成費	10,154,650	0	△ 10,154,650	
予 備 費	42,428,269	47,620,269	5,192,000	
合 計	225,135,646	240,638,269	15,502,623	

(△印は支出減)

平成一八年度 東北学院大学後援会事業報告並びに予定

平成18(2006)年

- 4月 5日(水) 入学式/後援会入会式(於:仙台市体育館)
 4月 後援会通信「GROWTH(グロース)」
 第8号発行
 4月22日(金) 後援会役員会(於:土樋キャンパス)
 5月 「父母のための大学ガイド2006」発行
 5月20日(土) 後援会総会(於:泉キャンパス)
 7月15日(土) 地区後援会(秋田・山形・福島)
 8月17日(木) 地区後援会(いわき)
 8月18日(金) 地区後援会(水戸・東京)
 8月19日(土) 地区後援会(盛岡・郡山・相馬・宇都宮)
 8月24日(木) 地区後援会(北上)
 8月25日(金) 地区後援会(一関・鶴岡・会津若松)
 8月26日(土) 地区後援会(八戸・気仙沼・酒田・新潟)
 8月31日(木) 地区後援会(大館・宮古・横手)
 9月 1日(金) 地区後援会(函館・弘前・釜石・新庄)

- 9月 2日(土) 地区後援会(札幌・青森・大船渡・米沢)
 9月21日(木) 東北学院大生のための合同企業セミナー
 (於:国際センター)
 10月14日(土) ホームカミングデー〔第7回同窓祭〕
 (於:土樋キャンパス)
 10月 後援会通信「GROWTH(グロース)」
 第9号発行
 12月 1日(金) 後援会役員会(於:土樋キャンパス)
 12月23日(土) 東北学院創立120周年記念コンサート
 (於:泉キャンパス礼拝堂)

平成19(2007)年

3月26日(月) 【卒業式】

※【 】内は大学主催の主な行事。予定は変更になる場合もあります。

東北学院創立120周年記念コンサート

高等教育機関としての東北学院は、本学院の知的財産を産学連携に活かし、また市民を対象とした公開講座という形で地域社会に貢献してまいりました。本年5月に、東北学院は創立120周年を迎え、地域社会との連携を一層深め、同窓生と母校との絆をさらに強めるために記念行事・事業を開催いたします。



記念演奏会

- 日 時 2006年12月23日(土) 14:30開演
 場 所 泉キャンパス礼拝堂(仙台市泉区天神沢2-1-1)
 内 容 バッハ・コレギウム・ジャパン
 ヘンデル:オラトリオ「メサイア」(バロックの宗教作品を上演)
 対 象 全席自由 3,500円(当日 4,000円)
 入場券前売所 東北学院大学生協
 藤崎、三越、さくら野、ヤマハ、カワイ
 お 問 合 せ 仙台コンサートソサエティ
 TEL.022-264-3074
 東北学院大学宗教音楽研究所
 TEL.022-375-1185

後援会総会並びに地区後援会のアンケートのご紹介

後援会総会並びに地区後援会の際にお願いしたアンケートの一部をご紹介します。東北学院大学及び本後援会に対し、ご父母の皆さまから貴重なご意見・ご要望が寄せられました。

すべてご紹介できませんが、寄せられたご意見・ご要望をもとに、本後援会の活動をより一層充実していきたいと考えております。引き続き、会員のご父母の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

後援会総会

- 公開講座に参加し、20年以上前の学生の気分を味わいました。お話の内容も分かりやすく、面白かったと思います。(英文1年)
- 初めて拝聴させて頂きました。素晴らしい演奏で心が洗われる感じがしました。また来年が楽しみです。ありがとうございました。(経営1年)
- 就職関連の資料は大変分かりやすく区分けされていて、過去のデータなどもとても良く整理されていましたが、学生達の普段の生活やイベントなどの映像資料等もあれば良かったと思いました。(経済2年)
- 子供が入学した学科について、詳しく教えて頂いて、大変良かったです。(地域1年)
- 学生にインターネットで調べる求人情報の見方を指導して欲しい。(英文3年)
- また今回のような就職セミナーを開催して頂きたいです。(英文1年)
- 学生個人のロッカーがあると良いと思います。(英文4年)
- 前回に来た時より、禁煙(分煙)がなされて改善していたので、安心しました。(歴史3年)
- 早い時期(特に1年生)より、就職について考えるようにPRをして欲しい。(言語1年)

地区後援会

- 科目登録届及び成績表の見方について良く理解できた。目安として各学年毎の卒業取得単位を教えてください、より参考になると思う。(経済3年)
- 1年生の保護者に対しては、事前に「父母のための大学ガイド」(特に資料編)を配布願いたい。(情報1年)
- ホームルームがないのは分かったが、年に数回でも学生を招集したりする事はあるのか?等も聞きたかった。(電気1年)
- 親元から離れた子供を把握するにも限度があるため、グループ主任制度及び授業出席状況調査は良い対策と思う。(経営3年)
- 健康診断で病気の早期発見ができた。子供も結果により、食生活に気を配る事ができ、良かった。(歴史2年)
- 公務員講座等の説明をもう少し詳しくして欲しい。(経済1年)
- 地方でも就職セミナーを父母対象に開催して欲しい。(法律4年)
- 他の学科に比べ、歴史学科の就職率が極端に低いのはなぜか、対策は取っているのか?(歴史4年)
- 宮城県以外の地域の求人企業の発掘をして、求人企業の数を多くしてもらいたい。(歴史1年)
- なかなか大学の先生の授業を聞く機会はないので、もう少し公開講座の時間を取って欲しい。(歴史3年)
- 大学紹介ビデオで、OBの方へのインタビューもあると、卒業後の姿も想像できて、安心かなと思った。(教養4年)
- 大学紹介ビデオで紹介された学生達が高い学業意識を持ち、学んでいる姿が素晴らしい。土樋キャンパスの建物がクラシックで伝統を感じた。(英文2年)
- 経営学科の学生はパソコンなど持ち運びが大変なので、学生用ロッカーを備えて欲しい。(経営1年)

「東北学院大生のための合同企業セミナー」の開催結果について

今年度も「東北学院大学生のための合同企業セミナー」が、平成18年度卒業生を対象に、9月21日（木）、仙台国際センターにおいて後援会と就職部の共催で開催されました。昨年度に続き、このセミナーの開催には、後援会から就職活動費の名目で、ご父母の方々の暖かいご援助を頂き実現されました。ここに厚く御礼申し上げます。

また、セミナーの実現に至るまでの企業の確保や開催時期の選定、更に、このセミナーの学生に対する周知徹底には、就職部は勿論のこと東北学院大学の各部局が好意的にポスターを掲示したり、教員が積極的に学生に伝えたりなど、本学の全教職員が協力していただきました。また、学院時報を読んだご父母からの勧めで参加した学生もあり、結果的には、大学挙げて学生と向き合えました。

その結果、9月半ばの、一般的には求人活動のピークが過ぎた開催時期にも関わらず、103社の企業が協力参加して下さいました。また、学生の参加数は当日まで予測出来ず、売り手市場がどこまで影響するのか、現段階での内定者が多いのか少ないのかなど不安として残りましたが、実際には470名（大学院生も含む）が参加し、企業の方の話を真剣に伺い、それに対して熱心に質問をしておりました。中にはこれが初めての就職活動という学生や公務員・教員採用試験の結果によっての方向転換で参加した学生、内定を懐にまだ思い悩みながら活動している学生、と多様ではありましたが、この機会を上手に活用し、今後の就職活動に具体的に生かしていくという観点からは、大変有意義で効果があったと考えております。

昨年は、このセミナーに参加した学生の2割が採用に結びついた、という結果を得ております。今後もご父母の方々の暖かいご支援に預かりながら、一人でも多くの学生が明るい希望を持って、社会に巣立って行くお手伝いをしていきたいと考えております。

最後になりましたが、東北学院大学の学生のために、今回このセミナーに参加して下さいました各企業の方々に深く感謝申し上げます。



教育と研究の世界



学生にとって長持ちのする 工学教育をめざして

工学部電気情報工学科 助教授

小野 孝

工学教育といわれる言葉の内容は大きく二つに分けられると考えられます。ひとつは目の生産や開発現場で必要となる技術の習得を主体とするいわゆる実学教育、もう一つはその様な生産や開発の大枠を作る上で必要となる根源的な理論の習得を目的とする教育です。

前者の実学教育は第二次世界大戦以降の「ともかく物を作る事が優先」という日本の社会体制に大変良くマッチし、日本が今日世界第二位の経済大国となった原動力となり、多くの大学の工学部においてその主流教育理念として疑いなく採用実施されてきました。

しかしながら、時代がすすむにつれ日本の工業界を取り囲む環境は激変し、単なる物作りで成り立つことは難しいという厳しい現実には多くの企業が直面するようになってきました。ではこの様な状況から抜け出すにはどのような方策が考えられるのでしょうか。そのひとつは「物の生産を主流とする進路」を「物を作るための原理となる知恵を作ること」を主流とする進路」に切り替えることです。

たとえば私が携わっている情報分野の例を挙げれば、ソフトウェアの種類を覚えたりその使用方法の詳細を細部に渡り事細かに習得することなどは実学に属することでしょう。では、使用しているソフトウェアの動作の成り立ちやその内部についての理解なしに習得した単なる「使用するための技術」は学生の将来においてどの位長持ちするものなのでしょうか。それは使用するソフトウェアが変更された時点で殆ど無力となります、長持ちしないのです。しかしながら、

現在使用しているソフトウェアについてその内部構造やその動作の基本理論を学生本人が十分に理解しているとするならば、そのソフトウェアの使用を介して習得された「使用するための技術」はひとつの理念として学生本人の脳裏に習得され、使用するソフトウェアに将来さまざまな変更が生じて、学生はその理念をもとにして新しいソフトウェアを理解し使用することが出来、その理念は学生本人の能力の一部として長く機能することになるはずなのです。

このような例を考えてみると、今後工学部での教育は今までいわれてきた実学に強く軸足を置いたものではなく、むしろ従来は現場では余り役立たないと言われある意味で軽視されてきた「基礎理論の教育」に重点を置いた「長持ちのする工学教育」になるかと考え、私はその観点からの情報関連教育手法の開拓を今後更に深めていきたいと思っております。



現代中国経済社会を探る

教養学部言語文化学科 助教授

楊 世 英

私の専門は中国社会経済学です。具体的には1978年以來目覚ましい経済発展を遂げつつ、ゆっくりとしか変動しない中国経済社会を中心に実証的に分析してその実態と本質を検証することによって、中国経済社会の基本構造を解析しております。

1978年12月の中国共産党第十一期中央委員会第三回総会（十一期三中全会）を契機とする経済改革により、二十数年にわたって中国は社会においても経済においても歴史的变化が起こり、世界が注目する目覚ましい変貌を実現しました。この経済社会変化の要因および流動性と動態性を分析することは、中国の経済社会がどの方向に進むべきかを判断する基本的な根拠と思われる。

さらに、1990年代に入り社会主義市場経済論を打ち出して市場体制に転換しようとしている中国経済は、世界で目覚ましい経済高度成長を遂げている反面、経済体制の移行過程に関わる諸問題に直面しています。そこで、中国経済改革の諸相に対し、その変遷過程を分析し、急速な近代化をしている中国経済社会に対する理解を深めることが研究の狙いでもあります。

ご承知の通り、1980年以來、改革・開放政策は中国の経済社会に深刻な変化をもたらしました。とくに近年経済が急速に発展した結果、都市化が非常に進んでいます。それと同時に中国社会の階層構造も大きく変わっています。すなわち中国社会は体制移行と都市化の進展に伴って所得格差の拡大、都市部では富裕層がより豊かになり、農村部では全体生活水準が上昇したにもかかわらず、都市のとりわけ都市富裕層の

収入増加のスピードが全国平均や農村のそれよりも急速で、都市下層が形成し、農民層が短期間で分解しています。一般に経済発展に伴う中間層の拡大現象が現れなかったのです。

背景としては、1978年以來中国では急速な経済発展が進むにつれて、労働力の移動は活発化しています。特に1990年代初め農村出稼ぎ農民の移動が待たなしの状態になっていることによって中国で爆発的な「出稼ぎ」ブームが起きました。しかし目覚ましい中国経済の発展にもかかわらず、このような膨大な出稼ぎ農民に十分な就業機会を提供することは難しい。なぜなら、都市工業部門の雇用機会は依然小さく、その上、市場経済化の進展に伴い国有企業の再編によるリストラやレイオフ者が急増したからです。

中国経済社会が、どのような変動を遂げたのか、制度領域・成層的領域などの面から、ということを解明することは、本研究の最大の目的です。

教育面では、1980年代以來の中国社会の変貌をとらえ、私たちと同じ時代で激変している現代中国における経済発展と社会変容過程について、具体的に知識や理解を深めることを目的とし、中国経済社会の様々な分野を対象に、問題設定、資料調査、資料読解・分析、報告等の訓練を行います。現在の世界で目覚ましく経済高度成長を遂げている中国経済改革の軌跡や今後の行方を見ながら、中国経済・社会の抱える問題点を理解し、中国経済・社会に対する理解を深めていきたいと思っています。

同窓生を訪ねて

目標を立て、一日一日を大事に生きる



仙台89ERS (せんだいエイティナイナーズ)

松田 大地 選手 (G32)

平成16年教養学部教養学科情報科学専攻卒。バスケットボール部では、主将を務めるなど大活躍。卒業後、岩手の医療機器メーカーに入社するも、バスケットボール選手として岩手に在籍し、岩手国体に参加。折しも、日本初のプロバスケットボールリーグ「bj(バスケットボール・ジャパン)リーグ」が発足、仙台に東北唯一のプロチームとして「仙台89ERS」が設立されることを知り、プロ転向を志す。数々の難関を越え昨年、初代「仙台89ERS」メンバーとして契約。ポジションはガード。昨年に続き、2期目のbjリーグ開幕戦(ホームゲーム開幕戦は11月8日)に向け、戦力強化に挑む日々が始まっていた。

—バスケットボールとの出会いはいつ頃からですか？

小学3年(将監中央小)からで、担任の先生がバスケットボール部の顧問の先生でした。身長は小学生としては高くなかったんですけど、マラソン大会で上位に入って足が速いということで、バスケットやってみないかという感じで誘われてました。それが、ここまで来たきっかけになるかもしれませんね。小学校の卒業文集では、NBAに行きたい(笑)みたいなことを書いた記憶がありますね。

—そうすると、小・中・高とバスケットを続け、東北学院大にはどういう理由で入学を？

高校時代に学院大バスケットボール部と練習試合をする機会がありました。県内の大学何校かと試合をしたんですが、学院大のインパクトが強くて。真面目な中に個人個人が意志を持ってプレーしているという印象でした。それで、興味を持って…。

情報科学に進んだ高校の先輩もいたので話を聞いてましたし、勉強面でもバスケットボールでも両方でやりたいことがあったので決めました。

—情報科学では、どのような分野を？

最終的にはプログラミングを専攻し、3人でチームを作って、創造性開発支援というテーマで取り組みました。簡単に説明しにくいんですけど…。

—そうした勉強以外の時間は、バスケットボールに専念されていたということですね。バスケの一番の思い出は何でしたか？

3年の時に、インカレ(全日本学生バスケットボール選手権大会)で全国ベスト8に入ったことですね。学院大としても史上初でした。実は毎年毎年、くじ運が悪いのか強豪チームの多い関東リーグ1位のチームとベスト8をかけて試合をするようになっていたんですよ。対戦相手は筑波大で。試合は、は、終始ウチのペースでしたが、最後のクォーター残り6分、僕がファイブファ

ウルで退場になってしまった後に、チームのみんなが繋いでくれて、チーム全員で勝ったという印象深い試合でした。終わった時は、40分間の事が一つも思い出せない感じで、それだけワンプレー、ワンプレーに必死になっていたんですよ。

仙台89ERSに学院大の先輩で、この試合で一緒だった高橋憲一さんというエー

スプレイヤーがいるんですけど、今でも、この話をします。彼も一瞬一瞬しか覚えてなかったと。10点ぐらい勝っていたのが、後半ガタガタとなって、同点ぐらいまで追いつかれ、最後に彼がフリースロー入って、3点差で勝ったんですが、あの時は(優勝したに等しいぐらい)相当、ハシヤギましたね。

—ところで、学院大を卒業後は岩手の企業に営業として就職されたようですが、プロチーム「仙台89ERS」への転向はどのように？

卒業時にはまだ、プロリーグはありません。岩手で仕事をしながら国体メンバーに選ばれて、試合をしている頃に、bjリーグが出来て、なおかつ仙台でもチームができるらしいと聞いたんです。国体の監督にもそれならチャレンジしてみたいと、それでトライアウトに。自分が受けた1次のトライアウトは志願者が600人ぐらい。リーグ全体で2次審査に残れるのが50人。自分では、2次に残ることが出来たら、プロを目指したいという気持ちでした。2次に通りましたが、ドラフト会議では選ばれず、その直後に、仙台89ERSから、練習生からという話を受けて…。

—厳しいプロの世界ですね。練習生は13人。そこからわずか3人だけが選ばれて、契約選手になると聞きましたが、そのお一人に？

はい。それが、スタートでした。

去年1年間やってみて、シーズン40試合をクリアできる身体づくりに若干反省があったので、今年は倍ぐらいの体力づくりに取り組んでいます。

昨年度はレギュラーシーズン4位。しかし、プレーオフでは東京での試合に、仙台から応援に来ていただいたのに、一つも勝てないというすごい悔しい思いをしたので、今年はチームブースター(ファンの方々)と一緒に歓喜を味わいたい。もちろん、優勝を目指します。

—最後に、在校生へメッセージをお願いします。

スポーツに限らず、一日一日を大事にして欲しいですね。自分では時間がもったいない、その分、努力しようと思った時期があって、先輩から受ける刺激などもすごく勉強になったことがありました。そして、大きな目標を立てること。勉強もスポーツも自分の中で高いレベルに持っていくために、目標を立て、一日一日取り組んで欲しいですね。



©SENDAI 89ERS/bj-league

スピード感あふれるプレーを間近で体感しよう。



松田選手を応援しよう!!

- ホームゲーム 開幕戦は11月8日
- 対戦/新潟アルビレックス
- 会場/仙台市青葉体育館
- 開始/19:00~

学務部より

一部の学部では3年間で卒業することができるようになりました

— 大学院進学予定の成績優秀者の場合だけ— 学務部長 井上 義比古

日本では、大学に4年間以上在学して卒業に必要な単位をもらって卒業できる、という形が一般的であり、本学においてもそのような仕組みになっています。しかし、2006（平成18）年度以降に入学した人たちの場合、一部の学部では、特に優秀な成績をおさめ、大学に3年間で学んで卒業に必要な単位をもらえば、卒業できるようになりました。

これまで、大学を卒業せずに3年生を終わった時点で大学院に進学する「飛び入学」あるいは「飛び級入学」という制度（以下では、「飛び級」と呼びます）があり、4年間大学へ通わなくとも大学院へ進学することができるようになっていました。

学生の立場から見た場合、この「飛び級」は、学部で学ぶ期間を短くしてくれるという点では、とても便利な仕組みです。本学でもこの制度を利用して大学院に進学した人が何人かいます。しかし、「飛び級」の場合、「大学を卒業したのと同程度の学力がある」と認められて、大学を卒業しないで大学院へ進学しますから、学部の方は「退学」という扱いになり、〇〇学士という称号がもらえないわけです。そこで出てきたのが、「早期卒業」という制度です。

「早期卒業」とは、4年間たつ前に卒業に必要な単位を

修得したうえで「特に優秀な成績」をおさめた人は、3年あるいは3年半で学部を卒業する資格を認められ、学士号を授与される、という制度です。この制度を導入している大学の中では、対象を大学院進学希望者に限り、3年生の終わりに卒業に必要な単位を満たした上で、平均点が80点以上（厳しい大学ではもっと高くなっています）、試験を受けなかった科目や不合格の科目は、ゼロから2科目程度、といった、結構厳しい基準を設けているところが多いようです。

本学では、大学院進学希望者に限る、成績は平均80点以上など、全学的な大枠の基準を設け、その枠内で、導入したい学部が具体的な基準を決める、という方法を取ることになりました。法学部がこの制度を一番初めに導入し、2006（平成18）年度の入学生から「早期卒業」ができるようになりました。全国的に見ても、文科系の学部では、法科大学院への進学希望者に配慮しているためか、法学部で導入されているケースが多くなっています。

「早期卒業」によって3年間で卒業する人の数は、実際にはかなり限られるでしょうが、この制度の導入によって、本学に学ぶ人たちの選択肢が広がったことは確実です。

学生部より

学生への褒章

本学では、学生の諸活動に対して学年末などに種々の表彰を行なってまいりましたが必ずしも充分なものではありませんでした。学生の本分は正課に力を注ぐことでありますが課外活動やボランティアを含む諸活動も学生本人の資質を高める為に重要なものであり、本学でも課外活動を推奨してまいりました。学生はそれぞれの分野で顕著な成果を挙げております。本学ではこのような学生への励みとなるように「表彰規程」を明文化して学生に周知するようにいたしました。

この表彰規程の概要は次の様になっております。学業成績優秀者は学年始めに「優等生・特待生」として表彰をこれまでどおり受けられます。体育関係で顕著な実績を挙げた学生、例えば全日本代表として国際大会に出場した場合や全国大会で上位入賞した場合また学術研究活動にも枠を広げ国際規模の展覧会や公演会等に出場または出展した場合、全国規模の学会から表彰を受けた場合も該当することになりました。更に社会活動分野も対象として人命救助・犯罪防止・災害防止に貢献した場合、更にボランティアにおいても顕著な活動があった場合も該当いたします。

本学においては、日々の活動において他の模範となるような学生は表彰し全学を挙げて褒めたたえて学生の励みといたしたいと考えております。

●問い合わせ先

土樋キャンパス学生課

TEL.022-264-6471/FAX.022-264-6473

多賀城キャンパス学生課

TEL.022-368-1120/FAX.022-368-7070

泉キャンパス学生課

TEL.022-375-1151/FAX.022-375-5050



就職部より

平成18年度下半期就職行事 予定表

※対象学年はほとんどが3年生ですが、1・2年生も参加できる行事もあります。
 詳細は各キャンパスの就職掲示板でお知らせしています。

	就職活動ガイダンス	就職支援後援会	適性検査・対策試験	公務員講座・教員講座	その他就職支援行事
9月	第2回 具体的な就職活動について 自己分析の重要性と方法について	第3回 今年度の就職戦線	パソコン講座 カレッジTOEIC	市町村行政コース(2月迄) 警察・消防コース(2月迄) 専門基礎講座(3月迄) 国家Ⅱ種・地方上級 対策コース(3月迄)	企業と学生の 合同セミナー(4年生対象) 3年生対象就職面接 (土曜)
	第3回 業種・職種の研究の仕方について 業界・企業研究の具体的な方法について				
10月	第4回 就職情報誌サイト関係		TOEIC説明会 1年生適性検査	教養応用講座(2月迄)	先輩体験談 インターンシップ報告会
	第5回 資料請求(エントリー)の仕方について 自己PRと志望動機について エントリーシート・履歴書の書き方について 就職ノートの活用と情報の整理の仕方 1年生ガイダンス				
11月	第6回 就職登録 求人票の見方 合同・企業セミナーの参加の心得 先輩・企業訪問の手順と心得 2年生ガイダンス	第4回 企業の求める 人材とは	情報処理適性検査 エントリーシート攻略テスト 論文文講座 SPI模擬試験 2年生適性検査	公務員模試	
12月		第5回 就職活動の マナーについて	SEQ自己分析・行動特性検査 2年生適性検査結果説明会 日経経済テスト		業界研究講座 先輩アドバイス会
1月	第7回 春休みの就職活動について 面接試験の傾向と対策 就職進路希望調査マークシート配布	第6回 面接試験に 成功するには	エントリーシートテスト	公務員模試	3年生個人面談(泉)
2月	第8回 模擬面接			公務員模試	企業研究講座
3月				直前対策講座 公務員模試	企業と学生の 就職セミナー(多賀城)
4月	第9回 求人・就職登録について 現在の就職活動について 応募書類・推薦状などについて 就職進路希望調査マークシート回収				宮城県・仙台市等 地方自治体説明会 国家公務員説明会 警察官説明会

※上記の就職部各行事については3年生が主になっています。キャンパスによって若干の日程とタイトルが異なる場合もあります。
 その都度掲示板等でお知らせいたしますので注意してください。各行事とも学生は参加するのが一番です。ご父母の方々のお声
 かけをよろしくお願いたします。

※現時点で4年生の就職内定動向把握ができておりませんが、求人数は昨年を上回っておりますので、内定率も上回るだろうと予
 測いたしております。中には今から就職活動ということもありません。求人は若干となっても、ギリギリまでありますので諦めな
 いで最後の最後まで就職することに前向きに希望をもって取り組んでください。各キャンパスの就職課・係の窓口をドシドシ利
 用ください。皆で頑張りましょう!!

教育研究振興資金募集のお願い

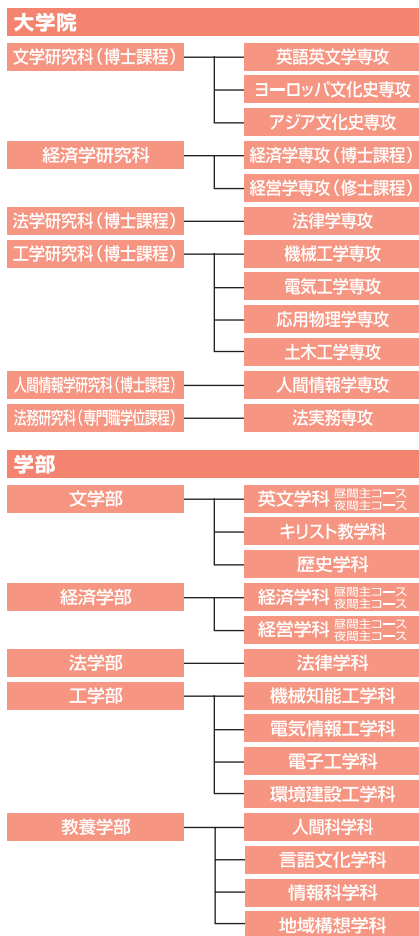
学校法人東北学院では、平成16年4月1日から平成21年3月31日の期間、次の事業の完遂に向けて教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

【募金目標額20億円】

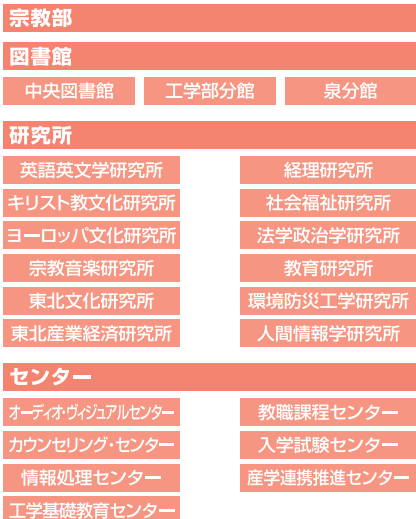
- 1.東北学院大学キャンパス整備
- 2.東北学院中学校高等学校校舎建設
- 3.東北学院榴ヶ岡高等学校体育館および管理棟建設
- 4.東北学院会館(仮称)建設
- 5.東北学院育英奨学基金の増額

詳しくは、
東北学院法人事務局財務部会計課まで
お問い合わせください。
〒980-8511
仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6467 FAX.022-264-6510

ORGANIZATION 教学組織図



平成18(2006)年4月1日現在



東北学院大学

土樋キャンパス

大学院:文学研究科、経済学研究科、
法学研究科、法務研究科
学 部:文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、
夜間主コース
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6421 (総務課)
FAX.022-264-3030 (//)

多賀城キャンパス

大学院:工学研究科
学 部:工学部
〒985-8537 多賀城市中央1-13-1
TEL.022-368-1116 (総務課)
FAX.022-368-7070 (//)

泉キャンパス

大学院:人間情報学研究科
学 部:文学部・経済学部・法学部(各1・2年)、
教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢2-1-1
TEL.022-375-1121 (総務課)
FAX.022-375-4040 (//)

東北学院大学後援会通信 GROWTH(グロース) vol.9

本誌に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

発行日 平成18(2006)年10月
編 集 東北学院大学後援会事務局
(総務部総務課内)
発 行 東北学院大学後援会
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6411
FAX.022-264-3030
E-mail kouenkai@staff.tohoku-gakuin.ac.jp
URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/
印 刷 ハリウコムニケーションズ株式会社

本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて
本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

「個人情報保護法」への取り組みについて

平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたのに伴い、東北学院大学後援会では個人情報の取り扱いについて、学校法人東北学院が制定した「学校法人東北学院個人情報保護規程」にのっとり、個人情報の適正な管理と保護に努めています。

後援会事務局では、東北学院大学後援会の運営に必要な皆様のご個人情報をお預りしていますが、今後も個人情報保護法に基づき慎重に取り扱ってまいりますので、皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。

- なお、後援会事務局で使用する個人情報の利用目的は次の通りです。
- ・「父母のための大学ガイド」並びに「後援会通信“グロース”」の発行・送付
- ・「後援会総会」並びに「地区後援会」の案内
- ・その他、上記に関連する業務

表紙／土樋キャンパス

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

昭和7(1932)年3月献堂。J.H.モルガン(米国)の設計によるカレッジ・ゴシック洋式の礼拝堂。収容人員は900名で、外壁に地元秋保産の石が使われています。シュネーダー第二代院長の米国における募金活動に賛同して献金を寄せたエラー・ラーハウザー嬢の名前がつけられています。